

【使命】＝基本理念(美術館のめざす姿)		静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのために、人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供するとともに、学校や地域社会との連携を積極的にめざします。その活動の基盤にコレクションを位置づけ、成長させ、未来へと伝えます。								
基本方針	重点目標	計画(P)		目標	実施状況(D)		評価(C)			
		評価指標			実績	自己評価				
A 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	1 収集方針に従い持続的に作品を収集します	1	作品購入件数・価格(件・千円)	10,000 千円	5 件 9,470 千円	【成果】 ・収集方針に即した日本画、西洋絵画、現代美術の優品を収集することができた。購入予算の見直しは厳しいが、美術館および担当学芸員の日頃の真摯な活動が、所蔵者の信頼を得、作品の寄贈を賜った。 ・年度後半が休館となる中、移動美術展などを通して収蔵品の公開機会を確保した。 ・収蔵品展のみの観覧者数はふるわなかったが、収蔵品による企画展「ストーリーズ」を通して、多くの方にコレクションをご覧いただくことができた。作品の収集や調査研究の歴史をひもどく同展を通して、コレクションの価値の発見と発信という点で大きな成果を挙げた。 ・コレクションの保存・修復には計画的に取り組んでいる。平成30年度に寄贈いただいた「朝川図巻」の3か年にわたる計画的な修理を無事終え、令和4年度のシンポジウム開催に結び付けることができた。調査研究に基づく作品収集と適切な修理が、貴重な文化財の後世への継承につながった好例である。 ・「収集—コレクションの持続性」を筆頭に8方針から成る5か年計画を策定した。				
		2	作品寄贈件数・価格(件・千円)	— 千円	9 件 73,900 千円					
		3	収蔵品の公開件数(件)	200 件	231 件					
	2 コレクションの新たな価値を発見し広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます	4	収蔵品展のみの観覧者数(人)	6,000 人	2,619 人					
		5	ロダン館の観覧者数(人)	30,000 人	25,261 人					
		新6	収蔵品に関する調査研究の発表回数(回)	10 回	7 回					
		7	コレクションを活用した教育普及プログラム数(件)	10 件	12 件					
		新8	修復したコレクションの件数・費用(件・千円)	3,770 千円	32 件 3,699 千円					
		9	公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】	—	別添					
B 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	1 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	10	展覧会の来館者数(人)	101,000 人	53,247 人	【成果】 ・当館のこれまでの活動に根差しつつ、それをさらに深化、発展させた3本の自主企画展を開催。「静岡県立美術館でなければ開催できなかった」との評価を得るなど(『忘れられた江戸絵画史の本流』)、日頃の調査研究に基づいた当館独自の特色ある企画展を発信することができた。 ・「ストーリーズ」展は収集活動の検証という展で有意義であった。 ・開館35周年記念として特別版の移動美術展を浜松で開催、県立美術館コレクションを大規模に、かつ幅広く紹介することができ、西部地区における当館および当館コレクションの魅力の発信に有益だった。 ・作品やテーマに興味を持った人の割合は、目標を上回り高水準を維持した。 ・「忘れられた江戸絵画史の本流」展及び「古代エジプト展」では、事前予約制を導入し、来館者の分散を図るなど、コロナ禍においても密を避け快適な鑑賞環境を確保し、無事開館を続けることができた。				
		11	自主企画・企画参加型の展覧会の回数(回)	3 回	3 回					
		12	作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	90.0 %	91.8 %					
		13	展覧会に対する外部評価【定性】	—	別添					
	2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	14	調査研究の発表回数(回)	12 回	17 回					
		15	内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	12 回	11 回					
		16	他の美術館や大学と連携した取組件数(回)	3 回	3 回					
		17	調査研究に関する外部評価【定性】	—	別添					
C 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	18	学校教育と連携した取組数(件) うち特別支援学校と連携した取組数(件)	40 件	44 件 10 件	【成果】 ・重点目標1については、webを活用したプログラムについては開発に着手できなかったが、学校教育との連携や鑑賞系プログラムについては目標を上回ることができた。 ・重点目標2については、目標に達しなかったものの、講演会や館長講座、フロアレクチャー等は実施できている。しかし、館内空間を生かした催事については、コロナの状況により事業が中止となった。 ・重点目標3については、コロナ禍によるイベント中止や工事休館の影響もあったが、ボランティア活動の一部や館内レストラン企業、近隣文化関係団体と連携した取組は実施した。 【課題】 ・webの活用はコロナ禍において一層強く求められているが、当館ではまだ対応できる範囲は広くはない。引き続き情報収集するとともに、リモート対応の範囲の拡大や、新しいプログラムの検討も必要と考えられる。 ・地域との連携については、これまでの関係団体との連携を維持するとともに、新たな連携を模索していく。				
		19	鑑賞系プログラム数(件)	15 件	12 件					
		新20	webを活用したプログラム数(件)	2 件	0 件					
		21	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】	—	別添					
	2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	22	講演会等の開催件数(回)	33 回	28 回					
		23	学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	30 回	24 回					
		24	館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	3 件 500 人	1 件 383 人					
	3 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を充実します	25	地域住民等と連携した取組数(件)	2 件	4 件					
26		地域住民、企業、文化関係団体等と連携した取組に関する職員レポート【定性】	—	別添						
D さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	1 広報戦略を策定し、広報の質を高めます	27	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合(%)	80.0 %	80.1 %	【成果】 ・デジタルアーカイブに関しては、基本システムが完成し、公開することが出来た。 ・観光業等との連携に関しては、コロナ禍においてはイベントの中止が相次ぎ、大変厳しかったが、その中でも教育機関への情報発信を行うなど、新たなチャンネルを構築し始めた。 【課題】 ・デジタルアーカイブに関しては、作品作家情報の精度向上のほか、図書情報の追加や現代美術関連情報の遊及入力など、今後も継続して内容の充実にも努める必要があり、そのための予算確保が課題となる。 ・現在の広報は、各職員が業務の一部として実施している。戦略的に広報を行うには、専門的な知識を有した人材の活用が求められる。				
		新28	デジタルアーカイブによる情報発信 作品作家情報の公開件数(件) 現代美術関連資料の公開件数(件) 図書情報の公開件数(件)	2,934 件 6,304 件 45,500 件	2,934 件 6,304 件 22,651 件					
		29	ホームページのアクセス件数(件)	1,000,000 件	938,877 件					
		新30	facebook、Instagram、Twitterのビュー数(件)	1,000,000 件	989,677 件					
		新31	facebook、Instagram、Twitterのエンゲージメント等の件数(件)	20,000 件	29,470 件					
		32	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数(件)	7 件	6 件					
	2 観光業界等と連携した新たな広報チャンネルの開拓に取り組めます	新33	教育機関への情報発信数(件)	4 件	6 件					
		34	広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】	—	別添					
	E 環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます。	1 館内施設を充実させ、満足度を高めます	35	美術館利用者数(人)	132,700 人		77,741 人	【成果】 ・エントランスホールでは、特定天井の改修工事と照明を更新した。照明については、間接照明を増やすなど、エントランスの環境を改善した。また、2階展示室の照明の更新、壁の塗替えなどを行い、作品を展示・鑑賞する環境を改善した。 ・時間制予約の導入による来館者の分散、JR草薙駅からバスの増便など、来館者の満足度を高める取り組みも実施した。 ・「古代エジプト展」は、当初予定になかった文化庁補助金の交付を受けるなど収入の確保に努めた。 【課題】 ・新型コロナウイルスに係る緊急事態宣言の影響などにより、「美術館利用者数」は目標を達成することができなかった。今後もコロナ禍での開館が続くが、感染防止対策を徹底した上で、安心して来館していただける環境を整備する必要がある。 ・「来館者のアクセス満足度」は、目標を下回った。公共交通機関については、バスの運行本数の問題があり、自家用車については、収容台数と利便性の問題がある。 ・運営基盤の強化を図るため、引き続き、収入の確保や業務の効率化に取り組む。また、企業との連携を強化する必要がある。		
			36	鑑賞環境に対する満足度(%)	85.0 %		90.3 %			
37			レストランに対する満足度(%)	90.0 %	92.4 %					
38			ミュージアムショップに対する満足度(%)	90.0 %	97.1 %					
2 周辺環境やアクセスの利便を向上させます		39	来館者のアクセス満足度 上段:公共交通機関利用 下段:自家用車利用	70.0 % 70.0 %	67.8 % 55.7 %					
		3	運営基盤を強化します	新40	運営基盤の強化等に関する職員レポート【定性】	—	別添			
設置者の取組		取組の状況				第三者評価委員意見				

基本方針	A 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します
------	----------------------------

計画(P)			実施状況(D) R4.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	備考	自己評価
1 収集方針に従い持続的に作品を収集します	1 作品購入件数・価格(件・千円)	10,000 千円	5 件 9,470 千円		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 購入作品は、日本画2件、西洋絵画2件、現代美術1件の計5件である。 日本画：当館の狩野派コレクションは全国有数の規模と質を備え、美術館活動の主要な柱となっている。購入作品2点は江戸時代前期・後期の狩野派の新出作品であり、当館の狩野派コレクションにさらに厚みを加えることができた。とりわけ狩野探幽については新たな作品の発見が稀な作家であり、その優品を適切な価格で購入できたことは大きな成果といえる。 西洋絵画：風景をテーマとする版画2点を購入。美術館の収集方針「風景表現」に合致し、コレクションの幅を広げるものであるとともに、いずれも既収蔵作品と関連の深い作品であり、今後の展覧会における活用が見込まれる。 現代美術：1960年代後半から70年代初頭にかけて活動した静岡の現代美術グループで、近年再評価が著しい「グループ幻触」にまつわる作品1件を購入、静岡ゆかり作家の発掘と作品の収集は県立美術館の重要な使命であり、この点で大いに貢献した。 購入予算の見通しが厳しい中、3名の方から計9点の作品をご寄贈いただき、今年度も寄贈を通してコレクションの充実を進めることができた。いずれも現代美術であり、美術館および担当学芸員の日頃の真摯な活動が、所蔵者の信頼を得、ご寄贈に結びついたものと考えられる。
	2 作品寄贈件数・価格(件・千円)	1 件 — 千円	9 件 73,900 千円		
2 コレクションの新たな価値を発見し広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます	3 収蔵品の公開件数(件)	200 件	231 件	指標3＝収蔵品展(57)・企画展(67)・移動展(65)＋貸出(42)	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度後半が休館となる中、移動美術展特別版などを通して収蔵品の公開機会の確保に努めた。 収蔵品展のみの観覧者数はふるわなかったが、コレクションを核とした企画展「ストーリーズ」によって多くの方にコレクションをご覧いただくことができた。また、作品の収集や調査研究の歴史をひもとく同展は、コレクションの価値の発見と発信という点において、大きな成果を挙げた。 コレクションの保存・修復について、計画的に取り組んだ。特に、平成30年度に寄贈いただいた「鞆川図巻」の3カ年にわたる計画的な修理を無事終え、令和4年度の収蔵品展およびシンポジウム開催に結び付けることができた。調査研究に基づく収集活動と適切な修理が、貴重な文化財の後世への継承につながった好例である。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> コレクションにまつわる展示、保存、教育普及、調査研究といった諸活動は県立美術館の基盤を成すものである。重点目標2の充実を図り、継続的、効果的にコレクションの魅力を発信していくことで、作品収集への理解につなげていく。
	4 収蔵品展のみの観覧者数(人)	6,000 人	2,619 人	指標7の内訳は別紙	
	5 ロダン館の観覧者数(人)	30,000 人	25,261 人		
	新6 収蔵品に関する調査研究の発表回数(回)	10 回	7 回		
	7 コレクションを活用した教育普及プログラム数(件)	10 件	12 件		
	新8 修復したコレクションの件数・費用(件・千円)	3,770 千円	32 件 3,699 千円		
9 公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】	—	別添			

基本方針	B 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します
------	--

計画(P)			実施状況(D) R4.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	備考	自己評価
1 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	10 展覧会の来館者数(人)	101,000 人	53,247 人	◆は、自主企画・企画参加型展覧会	<p>【成果】</p> <p>・「ストーリーズ」 研究活動評価委員からの指摘にあるように、学芸員の「手の内を晒す」ような展覧会であったため、作品のどの側面に切り込み、どこまで踏み込むべきかの匙加減が難しく、試行錯誤をした展覧会であった。作品の収集、保存、公開を通して学芸員が得た経験や知識を記録に残し、次世代に伝え残すことの大切さを改めて考えさせられる機会になった。新たな視点による収蔵品展であったことから、アンケート結果からは、何度も当美術館に訪れているリピーターの方から、内容面への新鮮な驚きや、関心の高まりを感じたという意見をいただいた。収蔵品を活用した展覧会であることから比較的低予算で開催することができたこと、また近年の収蔵品企画展では予算上の問題から図録作成が難しい中、展示の成果を図録として残すことができたことも良かった。</p> <p>・「忘れられた江戸絵画史の本流」 個人コレクター所蔵の江戸狩野派作品の中から初公開の作品を選びすぐり、奥絵師4家、表絵師12家の主要画家の作品を時系列、家別に紹介したことで、江戸時代の絵画様式の根幹を成した江戸狩野派の全貌の一端を明らかにできた。</p> <p>・「江戸狩野派の古典学習」 従来、等閑視されてきた江戸狩野派の模本、直模作品、倣古図について紹介する展覧会で、江戸狩野派のすぐれた作品は、実は模本や倣古図に数多く存在することや、彼らの古典学習の実態について、作品を通じて具体的に明らかにした。</p> <p>・「古代エジプト展」 ベルリンのエジプト博物館所蔵の作品群により、古代エジプトの美術を、その宗教観共々紹介することが出来た。中でも、アマルナ期の作品はエジプト美術史の中でも特殊な写実性を備えたものであり、貴重な鑑賞機会となった。</p> <p>・「移動美術展 超名品展 風景と人間」 工事休館の機会を利用し、浜松市美術館の協力のもと、通常より大規模な移動美術展を実施した。木下館長が監修となることで、これまでの移動展とは異なる性格を持たせ、風景と人間をテーマとした「超」名品展という特色を出すことができた。メディア2社を加えた実行委員会形式で実施し、広報を展開した。支出を抑え、収支は良好であった。グッズや過去展図録の売れ行きは好調で、完売するものもあった。</p> <p>【課題】</p> <p>・「ストーリーズ」 観覧者数は、ゴールデンウィークを挟んだ、春の行楽シーズンに開催したことや、伊藤若冲や石田徹也など、当館を代表する人気作家の作品を出品していたことから、目標人数を超える入場者数を期待したが、結果的にはコロナの感染者増加に伴い首都圏や関西圏は緊急事態宣言下であり、アンケートの結果からもわかるように、県外からの来館者が1.4%と、予想をはるかに下回る結果となった。当館のコレクションの魅力が、異なる地域の多様な立場の観覧者にも伝えられる良い機会であったため、残念な結果であった。今後は、収蔵品について掘り下げ、その魅力を発信した本展の経験をもとに、より発展、充実させた内容の収蔵品企画の立案を行いたい。</p> <p>・「忘れられた江戸絵画史の本流」 FacebookなどのSNSや「ニコニコ美術館」での放送で反響があり、図録は完売間近となった。コロナ禍や遠方のため来館できない人からの購入希望も多かったが、図録や企画展グッズは当館ショップでの販売が中心であったため、支払い方法が現金書留であるなどハードルが高く、購入をあきらめたという声や不満の声が多くあった。EC決済など販売方法の多様化の必要性を感じた。</p> <p>・「江戸狩野派の古典学習」 企画展「忘れられた江戸絵画史の本流」展の開催を記念した特別展示という位置付けであったが、2本同時開催であったため、独自のテーマ立てによる内容であったものの本展については十分な広報が行き届かなかった。これまでにない枠組みで展覧会を開催する場合には、あらかじめ広報手法について慎重に検討する必要がある。</p> <p>・「古代エジプト展」 新型コロナウイルス感染拡大防止策を取りながらの実施であり、予約制の導入、観覧者の動線整理等、得るところは大きかったが、観覧者増を考えると、非常に難しかった。新型コロナが終息していない以上、観覧者の動員と防疫対策との両立を、引き続き考える必要がある。</p> <p>・「移動美術展 超名品展 風景と人間」 主催に加わった中日新聞社とテレビ静岡の媒体で広報展開し、来館者数は例年に比べ好調であったが、目標には到達しなかった。コレクションに注目をしてもらう方法については、今後も検討課題である。</p>
	◆ストーリーズ(39日間)	10,000 人	5,498 人		
	◆忘れられた江戸絵画史の本流(32日間)	10,000 人	5,661 人		
	古代エジプト展(50日間)	63,000 人	31,331 人		
	収蔵品展	6,000 人	2,619 人		
	移動美術展特別版 ◆静岡県立美術館超名品展 風景と人間(32日間)	12,000 人	8,138 人		
	11 自主企画・企画参加型の展覧会の回数(回)	3 回	3 回		
12 作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	90.0 %	91.8 %			
13 展覧会に対する外部評価【定性】	—	別添			
2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	14 調査研究の発表回数(回)	12 回	17 回	<p>【成果】</p> <p>・当館のこれまでの活動に根差しつつ、それをさらに深化、発展させた3本の自主企画展を開催。「静岡県立美術館でなければ開催できなかった」との評価を得るなど(『忘れられた江戸絵画史の本流』)、日頃の調査研究に基づいた当館独自の特色ある企画展を発信することができた。</p> <p>・「ストーリーズ」展は収集活動の検証という展で有意義であった。</p> <p>・開館35周年記念として特別版の移動美術展を浜松で開催、県立美術館コレクションを大規模に、かつ幅広く紹介することができ、西部地区における当館および当館コレクションの魅力の発信に有益だった。</p> <p>・作品やテーマに興味を持った人の割合は、目標を上回り高水準を維持した。</p> <p>・「忘れられた江戸絵画史の本流」展及び「古代エジプト展」では、事前予約制を導入し、来館者の分散を図るなど、コロナ禍においても密を避け快適な鑑賞環境を確保し、無事開館を続けることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・展覧会の来館者数は目標を大きく下回った。コロナ禍による県外からの来館者の減少や事前予約制導入による観覧者数の頭打ちなど諸要因が考えられる。コロナ禍における展覧会開催の意義・目的を改めて確認した上で、観覧者数目標値の設定とその達成方法について、基本方針Dの取組みと連動させながら検討していくことが重要である。</p> <p>・移動美術展を機に浜松市美術館や静岡文化芸術大学と連携することができた。今後の継続的な連携・協力関係の構築が課題である。</p> <p>・「忘れられた江戸絵画史の本流」展及び「古代エジプト展」では、引き続き、重要課題として取り組んでいく必要がある。</p>	
	15 内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	12 回	11 回		
	16 他の美術館や大学と連携した取り組み件数(回)	3 回	3 回		
	17 調査研究に関する外部評価【定性】	—	別添		

基本方針	C 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します
------	--------------------------------------

計画(P)			実施状況(D) R4.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	備考	自己評価
1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	18 学校教育と連携した取り組み数(件)うち特別支援学校と連携した取り組み数(件)	40 件	44 件 10 件	・指標18、19の内訳は別紙	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により予定通り実施できないプログラムが多くあったが、感染状況が比較的落ち着いた時期のねんど教室については、感染防止策を取ったうえで5回実施することができた。(計画8回のうち) ・レプリカや粘土の貸出プログラムを休館中にも活用してもらうことができ、これまでの活動の蓄積を生かしてコロナ禍における学校での美術教育の充実に貢献することができた。 ・昨年度に引き続き東京在住の講師と美術館実技室とをオンラインで結び、昨年度よりカメラの増設を行うことで、よりスムーズな講座の運営を実施することができた。 ・休館中に特別支援学校との連携出張ねんど教室を実施、コロナの感染状況に対応するためリモート版と対面版、両方のプログラムを作成して準備を進め、結果的に対面により現地で開催することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活様式に対応したプログラムをさらに検討するとともに、遠隔地の学校にも参加ができるよう、ウェブを利用した美術館教室等のプログラムを作成する方法を検討する必要がある。 ・昨年度から一部再開できたプログラムがあるとはいえ、学校・園と美術館の接点は例年よりも減少したため、コロナ禍であってもこれまで築いてきた連携を維持継続するための方法を検討する。
	19 鑑賞系プログラム数	15 件	12 件		
	新20 webを活用したプログラム数(件)	2 件	0 件		
	21 普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】	—	別添		
2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	22 講演会等の開催件数(回)	33 回	28 回	指標23＝美術講座(9)＋フロアレクチャー(2)＋オリエンテーション(9)＋出張美術講座(4)＋展示関連普及事業(0)	<p>【成果】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の状況は、年度当初より県の評価レベルで4以上で推移し、開館中は感染状況は悪かったと言える。しかし、県外から講師を招聘する講演会では講師のみオンラインに切り替えて対応するなどし、予定していた講義系の事業は実施できた。また、参加者数の予想を考慮しつつ、小型スピーカーを用いることで、フロアレクチャーを2回実施した。</p> <p>【課題】</p> <p>講義系のイベントについては、定員数の調整やオンライン対応などで、適宜対応できているが、フロアレクチャーやギャラリーツアーといった活動はなお大きく制限されている。また、館内空間を生かした催事では、比較的风险が高い事業である「ちょこっと体験」は、計画した2事業のうち1つが中止となった。なお、工事休館のためロダンウィークの実施がなく、演奏会等の実施もなかった。事業によっては、今後の実施の可能性を勘案し、内容の変更や、代替となる事業の考案などが求められる。</p>
	23 学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	30 回	24 回		
	24 館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	3 件 500 人	1 件 383 人		
3 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を充実します	25 地域住民等と連携した取組数	2 件	4 件	<p>指標25</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動 ・館内レストランとの連携 ・「文化の丘フェスタ」クイズラリー ・県立大学と連携した「ムセイオン静岡」の講義 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による地域イベントの中止及び9月からの工事休館により地域に密着したイベントについては参加することが出来なかった。 ・その中で、開館以来活動を続けてきたボランティア活動については、感染対策を講じてボランティアの安全を確保しながら、可能な範囲で活動を継続した。 ・「古代エジプト」展では、館内レストラン「ロダンテラス」で特別メニューとして「ピラミッドカレー」を提供した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナを見据えて地域連携の在り方を引き続き検討していく必要がある。
	26 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した取組に関する職員レポート【定性】	—	別添		

基本方針	D さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます
------	---------------------------------

計画(P)			実施状況(D) R4.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	備考	自己評価
1 広報戦略を策定し、広報の質を高めます	27 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合	80.0 %	80.1 %		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルアーカイブについては、基本的なシステムを完成させるとともに、いずれのデータベースも当初の目標通りのボリュームを登録・校正を経て、期限までに公開することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルアーカイブについては、作品作家情報の精度の向上、R3年度に予算の都合上登録できなかった図書情報の追加、現代美術関連資料のうち過去受入分の遡及入力などに今後取り組んでいく必要がある。 より多角的な情報発信のため、収蔵品等検索システムは当館だけで完結させるのではなく、他機関のシステムと横断検索を可能とするなど、外部との連携体制を模索する必要がある。 ホームページアクセス件数については、工事休館による展覧会・イベント情報への需要が縮小したため、前年度(1,460,987件)から大きく減少した。開館中と同等のアクセス数を目指すことは難しいが、休館中であっても、積極的な情報発信が求められる。
	新28 デジタルアーカイブによる情報発信 作品作家情報の公開件数(件) 現代美術関連資料の公開件数(件) 図書情報の公開件数(件)	2,934 件 6,304 件 45,500 件	2,934 件 6,304 件 22,651 件		
	29 ホームページのアクセス件数	1,000,000 件	938,877 件		
	新30 facebook、インスタグラム、ツイッターのビュー数(件)	1,000,000 件	989,677 件	facebook ページリーチ数 60,862 インスタ ページリーチ数 6,971 ツイッター インプレッション数 921,844	
	新31 facebook、インスタグラム、ツイッターのエンゲージメント等の件数(件)	20,000 件	29,470 件	facebook エンゲージメント数 4,838 インスタ エンゲージメント数 3,623 ツイッター エンゲージメント数 21,009	
2 観光業界等と連携した新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます	32 観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数	7 件	6 件	<p>指標32</p> <ul style="list-style-type: none"> 県観光協会主催の教育旅行説明会に参加「ストーリーズ展」 静岡大学新入生セミナーで紹介 地元の「高齢者学級たちばな教室」での講義 「忘れられた江戸絵画史の本流展」 静岡大学の講義内で紹介 ネット放送のニコニコ美術館で展覧会を生放送 「エジプト展」 館内レストランで展覧会と連携したメニューを提供 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍によりイベントの実施が困難となり、半年間の工事休館も重なり積極的な広報連携取組を行うことが難しかったが、大学生などへの展覧会紹介や、インターネット放送にも取り組んだ。 指標33については、新たな試みとして、小・中・高・大の各教育機関へ美術館の利用促進依頼の通知等を配布した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> アフターコロナを見据えて地域連携及び観光業界との連携を模索し、美術館の発信力を更に高める必要がある。
	新33 教育機関への情報発信数(件)	4 件	6 件	<p>指標33</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ストーリーズ展」 県立大学事務局を通じた学生への広報 静岡大学新入生セミナーで紹介 「忘れられた江戸絵画史の本流展」 教育委員会事務局を通じた県内小中高校への広報 静岡大学の講義内で紹介 「古代エジプト展」 美術館周辺大学の事務局を通じた学生への広報 	
	34 広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】	—	別添		

基本方針	E 環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます。
------	--------------------------

計画(P)			実施状況(D) R4.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	備考	自己評価
1 館内施設を充実させ、満足度を高めます	35 美術館利用者数	132,700 人	77,741 人	令和3年度は次の工事(小規模を除く)を行った。 ・本館エントランスホール天井改修工事 ・本館乗用荷物用エレベーター更新工事 ・本館展示室照明改修工事 ・本館展示室移動壁修繕工事 ・本館自動火災報知機設備・ハロゲン化物消火設備更新工事 ・本館屋根塗膜防水修繕・銅板屋根修繕工事 ・本館非常灯・誘導灯更新工事 ・本館受変電設備修繕工事 ・本館携帯品預り所内壁修繕工事 ・本館非常用発電設備修繕工事 ・ロダン館調光盤修繕工事 ・ロダン館非常用発電設備修繕工事 ・本館トイレ手洗い蛇口自動水栓改修工事	【成果】 ・新型コロナウイルスに係る緊急事態宣言の影響などにより、「美術館利用者数」は目標を達成することができなかったが、時間制予約の導入により来館者の分散を図るなど、感染防止対策の徹底と鑑賞環境の改善に努めた。 ・令和3年度は半年間休館して大規模修繕工事を行った。平成25年度の建築基準法改正により、天井脱落対策の規制が強化されたことに伴い、エントランスホールの特定天井を、ワイヤーによる落下防止措置により安全な天井に改修した。同時に天井照明を更新し、より目に優しい照明環境を実現した。また、2階展示室の照明設備の更新、壁の塗替え、ピクチャーレールの更新を行い、作品を展示・鑑賞する環境を改善した。その他、館内の非常用照明及び誘導灯の更新並びに展示室、収蔵庫内のハロゲン化物消火設備及び感知器の更新、エレベーター更新、屋根防水工事等を行った。 ・レストランの満足度は、令和2年度の89.7%から92.4%に向上し、目標(90.0%)を上回った。また、「古代エジプト展」では特別メニューを提供した。 ・ミュージアムショップの満足度も令和2年度の91.8%から97.1%に向上し、目標(90.0%)を上回った。これは、企画展に合わせて商品のレイアウトを工夫していることや、エジプト展では、既存のショップスペース以外にも物販スペースを確保し、来館者の利便性を向上させたことが考えられる。 【課題】 ・開館から35年が経過し、施設の老朽化が進行している。引き続き、施設の適切な維持管理に努めるとともに、令和2年度に策定した中期維持保全計画に基づく改修を計画的に進めていく必要がある。 ・今後もコロナ禍での開館が続くが、感染防止対策を徹底した上で、安心して来館していただける環境を整備する必要がある。 ・レストラン、ミュージアムショップの運営は、業者に委託をしているが、美術館としても、来館者のニーズの把握に努め、引き続き高い満足度を維持していく必要がある。
	展覧会観覧者数	101,000 人	53,247 人		
	教育普及プログラム参加者数	6,400 人	3,661 人		
	ミュージアムコンサート入場者数	— 人	— 人		
	県民ギャラリー入場者数	8,000 人	9,452 人		
	講堂入場者数	1,500 人	1,688 人		
	レストラン利用者数	5,000 人	4,097 人		
	ミュージアムショップ利用者数	10,000 人	5,138 人		
	図書閲覧室利用者数	800 人	458 人		
	36 鑑賞環境に対する満足度	85.0 %	90.3 %		
37 レストランに対する満足度	90.0 %	92.4 %			
38 ミュージアムショップに対する満足度	90.0 %	97.1 %			
2 周辺環境やアクセスの利便を向上させます	39 来館者のアクセス満足度 ※上段:公共交通機関利用 下段:自家用車利用	70.0 %	67.8 %	【成果】 ・当館への利用交通機関で最も多い自家用車でのアクセス満足度は55.7%と目標の70.0%には達せず、昨年度の54.7%から1ポイントの増加にとどまった。来館者が多く見込まれた「古代エジプト展」では、駐車場待ちによる交通渋滞を招かないよう、交通誘導員の配置や隣接する県立大学の職員駐車場の借用などの対応を行った。 ・公共交通機関を利用する来館者の問い合わせには、「JR草薙駅から運行する100円バスを利用するのが便利であること」を周知しているが、運行が1時間に1本であることから、来館者が多く見込まれた「古代エジプト展」においては、バス運行会社と交渉し、運行本数を30分に1本に増やし、来館者の利便性を図った。 【課題】 ・自家用車利用者のアクセスについては、敷地内に無料の駐車場があるものの収容台数が約400台と限られていること、近くの駐車場から満車になるため、離れた駐車場になると美術館までの徒歩区間が長く、登り坂であることがアクセスに満足できない要因になっている。	
		70.0 %	55.7 %		
3 運営基盤を強化します	新40 運営基盤の強化等に関する職員レポート【定性】	—	別添	【成果】 ・「古代エジプト」展は、当初予定になかった文化庁補助金の交付を受けるなど収入の確保に努めた。 ・令和4年3月から、静岡県経営者協会と企業連携について協議を開始した。 【課題】 ・県予算が厳しい中、観覧料収入の増加や外部資金の確保を図る必要がある。 ・企業との連携強化により、新たな来館者を獲得する必要がある。	